


 随想
 

偶 感

名寄市 昔農医院 昔農輝夫

去る3月4日午後2通の封書が届く。その1通は名寄市立病院医誌への投稿依頼であり他の1通は偕行である。この偕行というのは戦前の陸軍士官学校、航空士官学校及び陸軍経理学校出身の将校達に最近の世情や嘗ての戦歴や将軍像及び同輩達の文芸欄等を併せ記載してあり、堅苦しい文章ながら我々の若かりし青春時代が回顧出来る偕行社発行の唯一の月刊誌である。それを受取る度に思うのは市立病院医誌は各号とも逐年内容も豊富になり本も亦分厚くなるのに比して偕行は終戦後約半世紀も経ち漸次菲薄となり淋しい思いをしているが、これも旧軍時代の卒業生達が逐次死亡脱会して投稿記事も減少するためであろう。これが届くや否や私は58期生の欄を真先に目を通すのが癖である。その理由は貴様と俺と呼び合った戦友とも心友とも信じた仲間が久しく会わなかったうちに最近では毎号のように訃報として載り、年々男女共平均寿命が延びている今日あの頑健そのものだった当時の彼等を回想するときその平均値にも達せず他界したのかと思うとその無念さと心残りを偲んでまことに諸行無常という他はない。偕行によれば今年1年間の同期生物故者48名と物故夫人10名と記録されている。

この頃は自分が老齢の域に達したせいか紙上に報じられる定年制の是非の問題が気に掛かるようになった。

先ずは国会議員の定年制(私は大いに賛成)に次いで保険医の定年制(絶対不賛成)と第三に高齢者運転免許証交付についてである。

保険医の定年制については現に官公立病院勤務者の殆どが余力を充分残したまま定年制に達するがその方達はその後医療業務や関連事業などに今までに培って来た豊富な経験を生かして更なる活

躍をされている方を多く見掛けるし、又開業医の立場からも益々円熟味を増して親子代々に亘り地域医療に貢献している方は枚挙に遑がなく、体力能力等は年齢のみを基準にして一律に評価されるべきでなく、定年後即老弱者のイメージにとられるのではないかと感ずることありまことに不本意極りないと思う。

前記偕行3月号の川柳教室に約220首位が投稿され見終えて印象に残ったのは次の4句であるが

こんなもの どう使うのさ 余命表

長寿法 古老に問えば 笑うだけ

最近を 忘れ昔を 覚えてる

古稀過ぎて からの月日の 経つ早さ

この中2句が選者の佳吟と秀吟に取上げられており私も大いに気分を良くした所である。又約3ヶ月前に北海道交通安全協会から高齢者講習の知らせがあった。以前に新聞で薄々知っていたがこれからは運転免許証の有効期間中に満75才になる人は必ず誕生日の前2ヶ月以内に講習を受ける義務が課せられてその終了証明証の提出がなければ新規に免許証は交付されなくなった。直ちに手続きを済ませ3月15日受講のため名寄自動車学校に行くと15名が参集していた。その内容は講義に始まり運転実地試験と各種運転適性検査器を使用して基本的反射動作能力、状況の変化に対する反応の速さと正確さ、注意力とハンドル操作等各種調査して直ちにデータで判読出来る仕組みになっており、即刻自分のデータからもうかなり老化現象が進んでいることを知り、今までの自己過信に陥っていたのに改めて驚ろいた。最初の規定運転コース一周後助手席の指導員から私に「どうでしたか。大分緊張したでしょう」と言われたが直感的に運転が下手だったのであろうと観念して

即座に「こんなにあがるのなら家を出る時に血圧と安定剤でも服用して来れば良かった」のにと返事をして降車した。続いて各種検査に挑戦するうちに初顔合わせの受験生達もお互いにリラックスして自分の年齢や運転歴を話す雰囲気になってきた。A氏曰く「最近とみに高齢者の事故多発が言われるが40年前資格取得時は今とは違い特殊な階層の人のみが自家用車が持ったので人口比率からもそう目立たなかったが、今の車社会の若者達も皆が車を持てるよき時代となり確かに事故も多いが特別老人ばかりが多いのではなく、自分の技術は以前と全く変りないと自画自賛。又B夫人は60才を越してから反射神経も運動神経も鋭くなり事故は一度も起さずかなり飛ばしているらしく若さと技倆を吹聴。私の見たC老人は外観上稍前屈みで小股歩きの様子から他人の事ながら不安視し

つゝ話の輪の中にいた。約3時間経ち講習全部終了して各自点呼して証明書が交付されたが、このうち何人が不適と言われるのか不安と期待と興味をもって見ていたが、全員無事受領し皆安堵の顔色で逐次教室を後にした。私が早目に駐車場で見渡すと最も心配していたあのC老人が颯爽とピカピカの外車に乗り込んで帰宅する後ろ姿を見送る羽目になった。

人間は生れてから20～25年間は成長の時期、それを過ぎれば直ちに退行期に入るのが生理的なことで、身体機能の低下や予備能力の低下は避けて通れない宿命であり自分だけは例外だと考えるのは独りよがりと思われる。

が最後の老人Cのケースから案外人は見掛けによらぬものだとも感じた次第である。

(平成11年4月15日記)



広大な丘陵に作られたビート畑の片隅に取り残されたスモモの木にも遅い春が訪れた……

撮影 放射線科 工藤宇一
撮影機器および撮影データ
PENTAX Z1
SMC200 mm F2.8
絞り 4.5
露出 auto
撮影場所 風連町 山本農場
数年前の春